



発行所
〒107-0052
東京都港区赤坂7丁目
5番38号
公益社団法人
日本PTA全国協議会
発行人 清水 敬介
電話 03(5545)7151
FAX 03(5545)7152
ホームページアドレス
<http://www.nippon-pta.or.jp/>

綱領

本会は、教育を本旨とし、特定の政党や宗教に偏ることなく、小学校及び中学校におけるPTA活動を通じて、我が国における社会教育及び家庭教育の充実に努めるとともに、家庭、学校、地域の連携を深め、子どもたちの健全育成と福祉の増進を図り、もって社会の発展に寄与する。

主な内容

- 1面
○令和3年度年次表彰式
- 2面
○協議会代表者会
- 3面
○日本PTA三役活動紹介
- 4・5面
○公益目的事業推進室会議活動報告
- 6面
○日本PTAブック研究大会
- 7面
○協議会活動紹介
- 8面
○対談「第69回日本PTA全国研究大会北九州大会」



令和3年度 年次表彰式

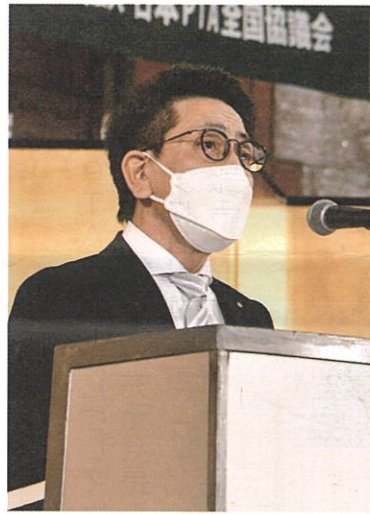
令和3年11月19日(金)、東京都千代田区のホテルニューオータニにおいて、令和3年度公益社団法人日本PTA全国協議会年次表彰式が、末松信介文部科学大臣をはじめと多くのご来賓をお迎えし、開催されました。

新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の観点から、今年度も出席者制限をさせていただき祝賀会は中止となりましたが、多くの受賞者の喜びと笑顔があふれる授賞式となりました。



式辞

公益社団法人日本PTA全国協議会
会長 清水 敬介



本日は、ご多忙の中、文部科学大臣・末松信介様、文部科学省総合教育政策局社会教育振興総括官・根本幸枝様をはじめ、多くのご来賓の方々にご臨席賜り誠にありがとうございます。

このたび表彰を受けられます、優良PTA文部科学大臣表彰の皆様、第43回全国小・中学校PTA広報紙コンクールに入賞された皆様、そして日本PTA全国協議会会長表彰の皆様、誠におめでとうございます。昨年度は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大のさなかということもあり、会場や開催内容の大幅変更を行いました。今年度は会場をこのホテルニューオータニに戻し、これまでに近い形での開催とさせていただきます。

ただ、引き続き感染症対策は必要となりますので、間隔を充分空け、ご参加の皆様にはマスクを着けてい

ただいでの実施となっております。また、表彰後の祝賀会も今回行いません。不自由な状況にご協力いただきましたことを感謝申し上げます。ともに、一刻も早い感染症収束を願ってやみません。

令和3年度の日本PTAは、昨年度多くの事業を中止せざるを得なかったつらい経験を踏まえつつ、「歩みを止めない」という思いで、今できることを試行錯誤しながら事業展開しております。

全国におかれましても、各地の研究大会で採用された完全オンライン形式やハイブリッド形式に代表される、様々な創意工夫は、子どもたちの毎日に寄り添うPTA活動を止めないという熱い思いが反映されており、敬意を表したいと思います。引き続き私どもの事業について、ご理解・ご協力をお願いしつつ、仲間である全国の皆様方のお取り組みにも、大きなエールを送らせていただきます。

日本最大の社会教育関係団体として、全国の会員の皆様のため、そして大切な子どもたちの未来のために、今できること、今伝えられることを大切に、引き続き邁進いたします。

本日はご参加の皆様方は、これから地域でますます活躍をいただく方々と存じます。共に歩み続ける仲間として、今後のご健勝と一層の活動ご発展を祈念し、式辞といたします。

本日は誠にありがとうございます。

祝辞

文部科学大臣
末松 信介様



本日はここに、令和3年度「日本PTA全国協議会」年次表彰式が盛大に開催されますことを、心から祝い申し上げます。

今回、表彰を受けられる皆様は、日頃から学校・家庭・地域を結ぶPTA活動に取り組まれ、その振興に多大な貢献をされました。これまでの御功績に対し、深く敬意を表します。

また、新型コロナウイルス感染症が長期化する中、子供たちの学びの継続と安全・安心な学校づくりのため、大変な御努力と創意工夫により、様々な取組が進められています。重ねて感謝申し上げます。

本年は、新しい学校の形がスタートする年となりました。

文部科学省では、約40年ぶりに小学校の学級規模を縮小し、35人学級を実現することも、GIGAスクール

2面へ続く

本紙は各校PTAに、「校長・教頭用」、「PTA会長・役員・広報委員用」、「事務局員用」を目安に配布しています。



ル構想に基づく学校のICT環境の整備を推進するなど、全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの一体的な充実に向けて取組を進めているところです。

子供たちを誰一人取り残すことなく、一人一人の可能性を最大限引き出す教育の実現を目指して、是非、皆様方におかれましても、子供たちの成長を支える地域の中核として、引き続き、御理解と御協力をいただきますよう、心からお願いを申し上げます。

最後になりますが、本日表彰を受けられた皆様を始め、日本PTA全国協議会の一層の御発展に期待をいたしますとともに、協議会の皆様からますますの御活躍を祈念し、私からのお祝いの言葉とさせていただきます。



これからも、この栄誉を励みに、より一層、精進してまいります所存です。本日は誠にありがとうございました。

受賞者を代表いたしましたしまして、感謝とお礼を申し上げます。

このような盛大な式典の開催と、栄誉ある賞を賜りましたことに深く感謝申し上げます。

先ほど、嬉しいニュースが飛び込んでまいりました。メジャーリーグで活躍中の大谷翔平選手のMVP受賞です。さらに、満票獲得での受賞とのこと。大谷選手の受賞は子どもたちに夢と希望を与えました。

一方、本日の受賞および表彰は、全国のPTA会員の励みとなり、PTA活動のさらなる充実と社会教育のますますの発展へと寄与し、ひいては「子どもたちのために」とつながっていくものと確信しております。



代表謝辞

受賞者代表

土田 修氏

協議会代表者会

令和3年10月21日(木)午後1時から【Zoomによるオンライン】地方協議会代表者で構成する協議会代表者会が開催されました。また、議事終了後、「日本PTAとの連携について」をテーマに研修が行われました。

議事

- (1) 各ブロック協議会報告(各ブロック協議会会長)
- (2) 公益目的事業推進室報告
 - a 全国大会推進室(本江室長)
 - b 調査研究推進室(宮本室長)
 - c 表彰及び国内研修・国際交流推進室(村崎室長)
 - d 広報及び教育支援助成推進室(吉村室長)
- (3) 諮問会議報告(北川議長)



寺本 充 元会長

講話「日本PTAとの連携について」(寺本充元会長)

10グループに分かれてディスカッション、報告・発表

ブロック会長、理事の役割

(定款施行細則)

第21条 この法人とブロックPTA協議会相互の連絡協議をはかるため、ブロックPTA協議会会長会を置く。

ブロック会長はブロック内PTA連合会・協議会に資する情報の交換・共有をはかるとともにブロック推薦理事と緊密な連携のもと、全国のブロックや各PTAおよび日本PTAの情報等を正しく伝達しブロックをとりまとめる。

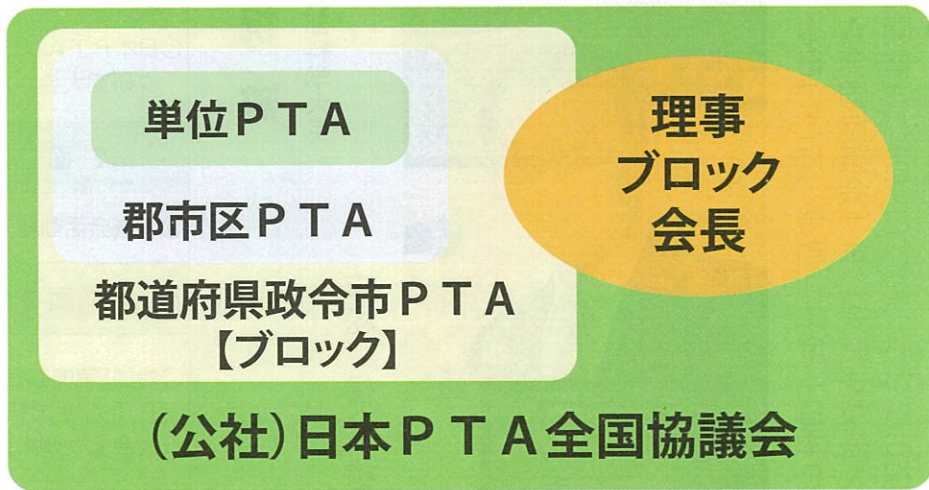
理事は、公益法人である日本PTAの役員として法人業務の意思決定に参画し義務を負う。

逐次業務状況等を説明することが求められる。

長引くコロナ禍の中、感染症拡大防止のため会議や大会、意見交換等の機会が中止あるいは配信等となり、関係者とのコミュニケーションや学びの場が激減しました。こうした状況下だからこそPTAの基本やあり方、組織や役割について協議会代表者同士が議論を深めるきっかけとして「日本PTA全国協議会の組織とそれぞれの役割」について次のようにお伝えさせていただきました。

日本PTAは内閣府に認定された公益社団法人で、綱領を目的として集まった64協議会が社員となり法人を構成し運営・事業を行っており、各ブロック協議会等から推薦され総会で承認された者が三役・理事職を

全うしています。また監事として弁護士、公認会計士、学識経験者が理事会をはじめとした法人運営全般をチェックしています。公益認定された法人は、約3年ごとに法律、定款規程等に則った運営と会計処理の実態について内閣府の立ち入り検査があり、日本PTAは適法・適正に運営しているという良い評価を得ています。各理事、ブロック会長、協議会代表者が一体となってそれぞれの役割を推進し、一丸となった関係機関との連携で子どもたちの健全育成と福祉の増進を図ることが出来ます。子どもたちの輝く豊かな未来創造に全力で取り組むあなたは日本PTAそのものであり社会教育のお手本です。



日本PTA二役活動紹介

副会長

江田 明弘



副会長の立ち位置はよく微妙なものとして捉えられませんが、その役割は明確にあります。それは会長の年度方針を正しく前に進めることです。今年度も担当室制を敷き、各事業を行っていきま

副会長

山田 洋子



昨年度はコロナ禍のため満足な活動ができませんでした。令和3年度は「男女共同参画推進連携会議議員」「第11期中央教育審議会初等中等教育分科会学校安全部会委員」「法教育推進協議会委員」「第5期消費者教育推進会議委員」に参加させて

副会長

本江 学



私の担当は、全国大会推進室室長を兼務ということもあり、主に、公益社団法人日本PTA全国協議会の「公益目的事業1」としての全国研究大会の開催に向け、担当役員として日々尽力いたしております。先般の北九州大会においては、一転三転を繰り返す形ではありましたが、全国の皆様の温かいご支援のおかげで無事に開催できたこと、この場をお借りして心より御礼申し上げます。

副会長

佐藤 博之



私からは充て職と呼ばれる外部出向の報告をいたします。一つ目は「運動部活動の地域移行に関する検討会議」、二つ目は「不登校に関する調査研究協力者会議」、三つ目は「全国的な学力調査に関する専門家会議」に委員として出席しております。特に運動部活動の会議は常にリアル開催で多くの専門家の方々との意見を交わしております。

専務

金田 淳



専務理事は、日本PTA諸々の会議の次第作成から当日の準備、会議の司会などを行っております。また、事務局と理事の橋渡し役はもちろん、文科省等の外部とのやりとりに関しても、事務局と連携し対応しております。

常務

青羽 章仁



常務理事として、また専務理事の補佐役として日本PTAの法人運営をサポートするとともに、各推進室、各協議会が円滑に活動していけるように様々な情報共有、取りまとめに日々尽力しております。

日本PTA

令和4年2月17日(木曜日)

(3)

「カタチ」をつくるのが先行され、その目的を見失うことがあります。「カタチ」づくりは、あくまでも手段であって目的ではありません。活動を始める手段が目的化することはよくあることです。組織が追求すべき理念に基づきその方向性を修正しながら前に進めていくことが私たち副会長の役割です。

この役を預かり半年になります。最後にその本質を見失わないように、良いものをつくり上げ、次年度への引き継ぎをさせていた

年度は「男女共同参画推進連携会議議員」「第11期中央教育審議会初等中等教育分科会学校安全部会委員」「法教育推進協議会委員」「第5期消費者教育推進会議委員」に参加させて

今現在は、北九州大会の決算・監査への対応をしつつ、次年度の山形大会、そしてその次の広島大会の開催に向け、全国から一人でも多くの会員の皆様から一人でも多くの会員の皆様に来ていただけるよう、開催地実行委員会をはじめ全国大会推進室のメンバーと共に、企画を練っておりますので、どうぞ宜しくお願いいたします。

PTA代表ということで保護者目線での話になるのですが、これからの子どもたちの未来に関わる案件ですので責任は重大と言わざるを得ません。子どもたちの教育環境の変化に対応すべく、文科省とも連携を取りながら双方向での情報提供ができればと思っております。また、令和4年度全国研究大会山形大会の1実行委員です。皆様ぜひ、山形大会へお越しください。

また、専務理事と共に表彰および国内研修・国際交流推進室を担当しています。今年度のホテルニューオータニでの年次表彰式には多くの受賞者の方々に参加していただき意義ある事業になり、担当推進室をはじめ、ご協力いただいた皆様に深く感謝申し上げます。

今年度も残すところ半年ではありますが、全ての推進室をサポートしていく役割として、一年間の推進室活動の集大成がしっかりと着地をして次にバトンをつなげるようにしてまいりますので、どうぞ宜しくお願いいたします。

全国大会推進室



第70回日本PTA全国研究大会 第54回日本PTA東北ブロック研究大会

令和4年 8月26日(金) 8月27日(土)

分科会

全体会

山形大会

『人とひとのつながりを体感しよう!』 ～あがらっしゃい精神の山形から～

新型コロナウイルス感染拡大により私たちを取り巻く環境は一変し、様々な変化に対応していかなければならない時代となりました。私たちは、人とひとの「つながり」の中で生きています。その「つながり」とは、先祖代々からのいのちのバトンをつなぎ、ふるさとを愛し未来に心をつなぐこと。PTAは、家庭と学校、そして地域をつなぐ大きな役割を担っています。子どもたちの健やかな成長には、家庭や学校はもとより地域と関わり、社会性を学ぶことが必要です。多くの人とひとの「つながり」があって生きる力を学ぶのです。

「Withコロナ」の時代、自由に集えず「つながり」が希薄になり、それを気づくことすら難しい状況となっています。当たり前と感じていた「つながり」は、当たり前ではなかったことに気づかされました。PTAの目的は、より良い社会を目指し活動することです。そのためにも子どもたちの健全育成が必要であり、さらに家庭・学校・地域のつながりをより強いものにしなければなりません。その「つながり」は、創られるものではありません。私たちPTAが積極的に創っていくものなのです。

俳聖・松尾芭蕉の「奥の細道」における山形県の出羽三山の旅は、心の旅といわれるように、いにしへの時代から山形県は人とひとの心をつなぐ「あがらっしゃい」の精神が色濃く残るおもてなしの地であります。このおもてなしの地、山形で、中止になった富山大会、リモート参加になった北九州大会の熱い想いを引き継ぎ、すべてのPTA会員が人とひとの「つながり」の大切さを体感できる絶好の機会を共に創りましょう。皆様のリアルでのご参加を心よりお待ちしております。



北九州大会でのリモートPR

(山形大会実行委員長 船橋 吾一)

	本江 学 担当役員・室長(副会長)	五十嵐 智浩 アドバイザー(参与)	佐藤 博之 アドバイザー(副会長)	青羽 章仁 アドバイザー(常務)		
三浦 隆史 (北九州市)	船橋 吾一 (山形県)	山本 浩司 (広島県)	舘 勇紀 (川崎市)	春山 真美 (奈良県)	宇田 直人 (石川県)	立助秀昭 (兵庫県)

調査研究推進室

令和3年度「教育に関する保護者の意識調査」について

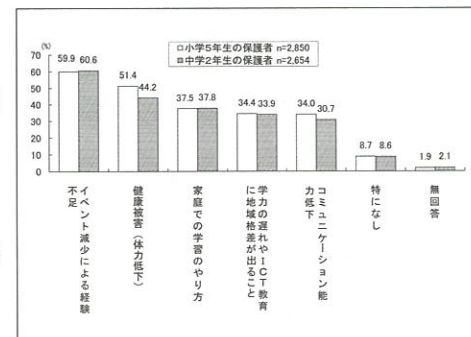
対象

全国64協議会の小学5年生と中学2年生の保護者合計約5千人

令和4年3月に調査結果報告書を発行予定、単位PTA等で活用を希望する場合は、日本PTAの事務局までご連絡ください。(一冊1,320円+送料)

今回の調査の特徴

特別設問〈With コロナ時代〉として「子育てについての不安」、「学校に期待すること」、「家庭で変化したこと」を加えました。



調査研究結果を親しみやすく活用

調査研究と聞くと一見堅苦しいですが、全国の保護者や子どもたちの貴重な意見の集積です。調査結果はPTA活動にも大いに参考になるでしょう。そこで、せっかくの調査結果を多くの方に触れていただきたいということで、令和2年度「子どもとメディアに関する意識調査」の調査結果を使って、クイズ形式の無料コンテンツをパワーポイント形式、Googleフォーム形式、LINE形式の3種類作成しました。PTAのイベントや研修会、学習会などで、ぜひご活用願います。



	山田 洋子 担当役員(副会長)	宮本 隆司 室長(理事)	比嘉 里奈 副室長(理事)	北川 和也 アドバイザー(参与)	金田 淳 アドバイザー(専務)	吉村 昌之 アドバイザー(理事)
グループA	秋好 直樹 リーダー(横浜市)	菊川 哲平 (北海道)	井門 明洋 (東京都中)	佐野 弘 (福井県)	松永 英治 (山口県)	仲村 貴介 (高知県)
グループB	岩館 智子 リーダー(岩手県)	畠山 佳樹 (茨城県)	濱詰 大介 (千葉県)	山羽 賢多郎 (三重県)	本松 大策 (和歌山県)	
グループC	山本 道雄 リーダー(長崎県)	加賀屋 久人 (秋田県)	熊谷 弘 (長野県)	大森 勢津 (京都市)	岡本 吉弘 (宮崎県)	吉田 誉範 (香川県)

表彰及び国内研修・国際交流推進室

当室は、三行詩・広報紙コンクール、年次表彰式、国内研修・国際交流の各事業を担当しており、その中の各作品審査に関する部分のみ二つのグループに分かれ活動しております。三行詩・広報紙コンクールには本年度も多くの作品を各協議会よりお寄せいただき、特色ある様々な作品を楽しみながら審査することができました。年次表彰式では、広報紙コンクールの受賞校をはじめ、各協議会より推薦された個人・団体の表彰と、文部科学省による優良PTAの表彰式も合同にて開催しております。本年度は2年ぶりにホテルニューオータニにて式典を開催させていただき、祝賀会の開催は断念いたしました。対象となる全ての表彰者の皆様をご案内することができました。式典では表彰者の皆様の喜びにあふれた表情を見ることができ、また、多くの皆様から式典開催に対して感謝のお言葉を頂き、室委員一同、年次表彰式を開催できたことを心より嬉しく思っております。国内研修事業に関しては、本年度の研修地を愛媛県大洲市とし、独立行政法人国立青少年教育振興機構と連携協力して開催いたします。本事業の目的である「国際社会で活躍できる次代を担う人材を育成」するため、室としてのテーマを「地域の伝統・文化・歴史・豊かな自然に触れ学ぶことでそれぞれの郷土と我が国に誇りを持つことへの一歩となる研修の実施」「ICTを活用した新しい研修プログラムの構築」「未来を見据え、他者と共に次代を切り開いて行ける人材の育成」と三つ掲げ、研修プログラムや運営方法等の検討を行っております。コロナ禍であっても参加生徒にとって安全・安心で実り多き研修となるよう、また、感染拡大時にはオンラインの研修へと切り替え、参加生徒の学ぶ意欲を、十分に満たすことのできる研修を、室委員が一体となり目指してまいります。

	金田 淳 担当役員(専務)	青羽 章仁 担当役員(常務)	村崎 一英 室長(理事)	三浦 国英 副室長(理事)	三浦 隆史 副室長(理事)	東川 勝哉 アドバイザー(顧問)	江田 明弘 アドバイザー(副会長)	山田 洋子 アドバイザー(副会長)
広報紙	中野 吉朗 (札幌市)	岡部 健作 (東京都小)	清水 あゆみ (群馬県)	三谷 真 (千葉市)	小泉 喜亮 (相模原市)	谷口 明 (静岡県)	宿南 洋一 (大阪府)	松尾 和昭 (福岡県)
三行詩	志村 洋一 (宮城県)	太田 一巳 (新潟県)	坂本 博士 (京都府)	松岡 智也 (鳥取県)	井本 友子 (徳島県)	松島 雄一郎 (熊本市)	伊禮 靖 (沖縄県)	

広報及び教育支援助成推進室

当室は、四つのグループで構成されております。日P新聞グループは新聞を年2回発刊し、総会、表彰式、三行詩・広報紙コンクール、全国大会、国内研修、各ブロック大会など日Pの事業を中心に掲載しております。今年度は外部との連携や三役の活動など、今まであまり取り上げられていなかった部分も掘り起こしておりますので、ぜひ、隅から隅までご覧ください。Webグループはホームページ（HP）のリニューアルを担当しております。HPは今や企業や団体の顔でもあるので皆さんに親しんでいただくのと継続して閲覧いただける興味を湧くようなコンテンツを作り込むことを考えております。課題も多く、悩みに悩んでおりますが、次年度開設に向けて奮闘しております。ご期待ください。テキストグループは今年6月に発行されました『まるごと教育テキスト』を「いかに活用していただけるのか？」をテーマに広報の視点から取り組んでおります。テキスト自体は有意義で価値が高い反面、利用にはハードルが高いようにも感じられます。そこで誰にでも見やすいように動画で内容を紹介してみました。各協議会や単Pにおいても活動に悩まれている役員さんたちが多いと思われます。テキストを手に取りたくなるような紹介動画になっておりますので是非ともご活用ください。教育支援助成グループは災害時におけるネットワークの構築をテーマにしております。最近では毎年のように日本各地で大きな災害に見舞われております。その中でも子どもたちが巻き込まれる災害には被災された保護者はもちろん、それ以外の保護者も同じように心が痛みます。災害に遭われた子どもや保護者に寄り添えるような支援システムを目指しております。室メンバー、意見を出し合い目的意識を持って活動しております。

	江田明弘 担当役員(副会長)	佐藤 博之 担当役員(副会長)	吉村 昌之 室長(理事)	熊木 勉 副室長(理事)	船橋 吾一 副室長(理事)	土田 修 アドバイザー(前副会長)	大島 修 アドバイザー(前常務)
日P新聞グループ	岡野 育広 リーダー(さいたま市)	青木 啓祐 (愛知県)	岡村 耕二 (福岡市)	山田 弘樹 (大分県)			
webグループ	後藤 豊郎 リーダー(岐阜県)	山子 泰典 (青森県)	内海 知己 (広島市)	原 完次 (島根県)			
テキストグループ	塚本 晃弘 リーダー(滋賀県)	高城 みさ (仙台市)	小見 直樹 (新潟市)	井上 貴文 (山梨県)			
教育支援助成グループ	太田 敬介 リーダー(鹿児島県)	平塚 康晴 (福島県)	大木 健一 (神奈川県)	寺島 雅峰 (富山県)	神田 敏和 (岡山県)		

令和3年度ブロック研究大会

令和3年度のブロック大会は、コロナ禍のため開催に当たり、リアル開催からオンライン開催に変更を余儀なくされました。北海道ブロック研究大会は中止し、教育講演会や実践事例発表として開催されました。九州ブロック研究大会は全国大会を兼ねております。

第53回日本PTA東北ブロック研究大会盛岡大会

東北の大地に根ざし、希望と幸いを求め、
生きる力を育むPTA活動をめざして

〓 先人から学び、新しいPTA活動の在り方を探る 〓

〇開催日 令和3年9月4日 〇大会会長 岩館 智子

令和3年9月4日、東北ブロック研究大会史上初のオンライン形式で、全体会と第3分科会を盛岡市からリアル配信、第1、2、4分科会を同じ日に収録後、10月いっぱいオンラインで配信して、東北ブロック研究大会盛岡大会を開催しました。9月4日の同日収録には、担当の岩手県だけでは対応できなかったため、仙台市・秋田県・福島県にZoomのホスト役



第53回日本PTA関東ブロック研究大会埼玉大会

つながろう人と人 彩の国から未来へ向けて！
子どもの豊かな心と生きる力を育むために

〓 子どもの豊かな心と生きる力を育むために 〓

〇開催日 令和3年10月16日 〇記念講演 尾木 直樹氏
〇大会会長 比嘉 里奈

令和3年10月16日に第53回日本PTA関東ブロック研究大会埼玉大会が開催されました。子どもと一緒に成長していける保護者を目指し、大会スローガンは「つながろう人と人 彩の国から未来へ向けて！」とし、サブテーマを「子どもの豊かな心と生きる力を育むために」としました。全体会では尾木直樹氏の「コロナ時代を生き抜くチカラ」の講演をライブ配信しました。



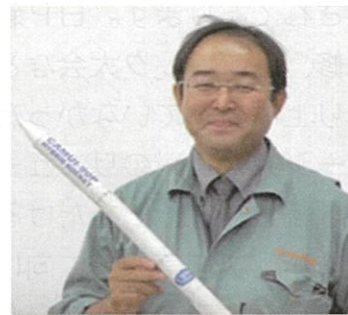
第77回日本PTA東海北陸ブロック研究大会清流の国ぎふ大会

GIFT

かけがえのない贈り物を子どもたちへ、岐阜人(ぎふと)から

〇開催日 令和3年10月23日 〇記念講演 植松 努氏
〇大会会長 後藤 豊郎

今大会はコロナ禍を想定した当初の予定とも異なり、無観客オンラインでの開催となりました。完全にオンライン化したことで「その場」に集まらなくてもできる」に加え「その時、視聴しなくても学べる」というオンラインの利点を最大限に利用した方法を示すことができた実感しています。今後はリアル開催をベースにオンラインの利点を



第47回日本PTA近畿ブロック研究大会大阪市大会

笑顔と感動を創造するPTA活動!!
子どもたちの未来へ！保護者は教育の当事者！

〓 子どもたちの未来へ！保護者は教育の当事者！ 〓

〇開催日 令和3年11月6日〜7日 〇記念講演 村野 明子氏
〇大会会長 宮本 隆司

本大会は、コロナ禍における開催方法を様々検討し、2日間に分けて実施しました。分科会は、近畿各地からZoomにより7会場に分かれ参加し、討議等を深め、大きな成果を上げました。全体会は、リアル参加とYouTubeにより、式典と村野明子氏の講演を実施し、ハイブリッド型としても成功しました。配信では、実況アナウンサーを入れて大変好評でした。また、後日、



第51回日本PTA中国ブロック研究大会島根県益田大会

元気な家庭！ 元気な学校！ 元気な地域！
つるうて子育て 清流の若鮎のごとく

〇開催日 令和3年11月6日 〇記念講演 大嶋 啓介氏
〇大会会長 原 完次

第51回日本PTA中国ブロック研究大会島根県益田大会は、最後まで現地参加型を検討しましたが、ハイブリッド型への変更、島根県P会員の参加から開催市のP会員のみの会場参加へ減らし開催しました。しかし、中ブロ参加者の皆様のご協力で個別・サテライトでの視聴と工夫をいただき、無事に開催することができましたことに心より感



第50回日本PTA四国ブロック研究大会高知大会

子どもたちと共に学ぼう、活かそう、未来を切り拓こう！
〓 知的循環型社会の実現に向けて 〓

〇開催日 令和3年11月13日 〇記念講演 川上 確也氏
〇大会会長 仲村 貴介

記念すべき第50回大会は、初の「ハイブリッド参加型」の研究大会として開催いたしました。大会スローガンに沿い、記念講演は川上確也氏による「子どもを取り巻く環境と生活習慣」というテーマで、実例とデータを基に家庭教育の大切さを、宇宙サイエンス教室では岡崎正哲氏による「宇宙からの視点で世界を再発見する」というテーマで、映像と実験を交え、大人になっても



協議会活動紹介

日本PTA全国協議会には、都道府県、並びに政令指定都市の64協議会が加盟しており、各協議会ごとに特色ある活動を実地しております。そこで、362号から4つの協議会活動紹介を掲載させていただき、年2回の新聞に掲載することにより、「日本PTA全国協議会創立80周年」までに64協議会の活動紹介が完了する予定です。

全国の皆様に情報共有を図ってまいりますので、毎号の協議会活動紹介を心待ちにいただけたら幸いです。

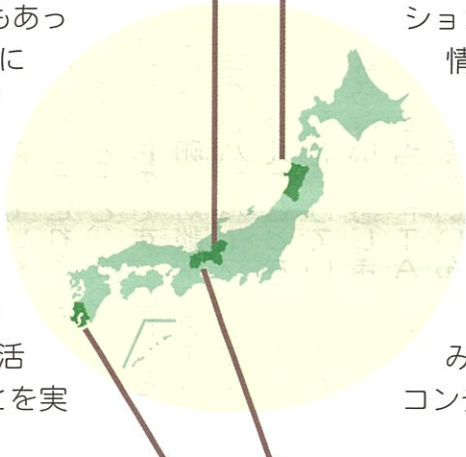
岐阜県PTA連合会

岐阜県PTA連合会は、532単位PTA、会員数137,410名で構成されている組織です。「令和の時代を生き抜くたくましさ身に付けた子どもの育成」をテーマに掲げ、子どもたちが取り組むべき「主体的・対話的で深い学び」を大人自身の姿勢として活動に取り組んでいます。大人自身が積み重ねる経験とトライ&エラーを繰り返しながら物事をつくり上げている姿こそ、これからの子どもたちに必要な生き抜く力であると信じてやみません。



今年度の定期大会は、開催1ヶ月前に開催方法を「ライブ&オンデマンド配信」へと急遽変更しました。初めてのトライでしたので、会場設営から画面の切り替えなどのカメラワークまで、視聴者を飽きさせない、しかも中味の濃い内容・配信をするための工夫に全力を注ぎました。そのかいもあって、横浜創英中学・高校の工藤勇一校長の講演には約2,500のアクセスがあり、アンケートでも好評を得ました。また、「PTA研修・学校職員研修で配信映像を使いたい」という要望も多かったです。

コロナ禍のため、リモート会議など様々な試みをしてきましたが、やってみて分かることが多くありました。過去の実績にとらわれずに、活動をアップデートしていくことが大切であることを実感しています。



秋田県PTA連合会

秋田県PTA連合会は昭和24年に創立され、現在の会員数は約58,000世帯、13郡市のPTA連合会で構成されております。

本年度は「『ともに語り、ともに学び、ともに成長しよう』～未来を拓く子どもたちのために、今できることを～」を活動主題とし、誰一人取り残すことなく心豊かな成長や幸福を育み、変わり続ける子どもたちを取り巻く環境に対し、家庭・学校・地域と協働しながら教育の充実に努めることを目的として取り組んでおります。



コロナ禍において、活動の内容もデジタル化されてきておりますが、会員同士のつながりにおいては、今までの形を大切にしながら「新しいスタイル」でも変わらないコミュニケーションを築き、子どもたちとともに成長できるための情報やスキルを保護者に提供していきたいと思っております。今年度よりYouTubeチャンネルの開設や県大会のオンライン配信を実施しました。来年度も引き続き、「気づき」「学ぶ」を身近に感じられるような「今必要な情報の提供」を推進していきます。関係各所とのコラボコンテンツ作成などの企画も順次進めております。保護者のみならず、子どもたちが端末を通して活用できるコンテンツを作成していくことが今後の目標です。

鹿児島県PTA連合会

鹿児島県PTA連合会は、昭和25年5月20日に開催された設立総会をもって誕生しました。翌年にはPTA活動研究委嘱公開(当時は別名称)を開催し、以来、70年間にわたり、県内各地でそれぞれのテーマに沿ったPTA活動の実践研究の様子を発表し、PTA活動の普及発展に大きな貢献を果たしてきました。

また、最も特徴的なことは「小学校・中学校・義務教育学校・高等学校・特別支援学校、公立、私立も一緒に連合会を形成している全国唯一の組織」ということです。このことを他県の方に話すと大変驚かれますが、県内PTA会員はこれが普通だと思っており(笑)、校種ごとに違う課題や多くの事例をみんなで共有しながら、これからもこの誇るべき組織形態を次の世代につないでいきたいと思っております。

昨年、設立から70周年を迎え、記念の式典や祝賀会を計画したのですが、この新型コロナウイルス感染拡大により、1年延期を決定し、令和4年2月19日に「70周年+1(プラスワン)」と題して、現在準備を進めています。計画通り開催されるかどうかは、今後の感染状況次第となりますが、PTAの歴史を振り返り、またこれからPTAが進むべき未来を、一人でも多くの仲間と共有する大切な記念式典が開催できることを祈っています。



滋賀県PTA連絡協議会

昨年度設立70周年を迎えた滋賀県PTA連絡協議会は、18市町の連合会・協議会を会員として運営しています。総会と同時に「県Pってなに？」研修を行い、PTAそのものの意義や役員として取り組む意識を深めてもらっています。

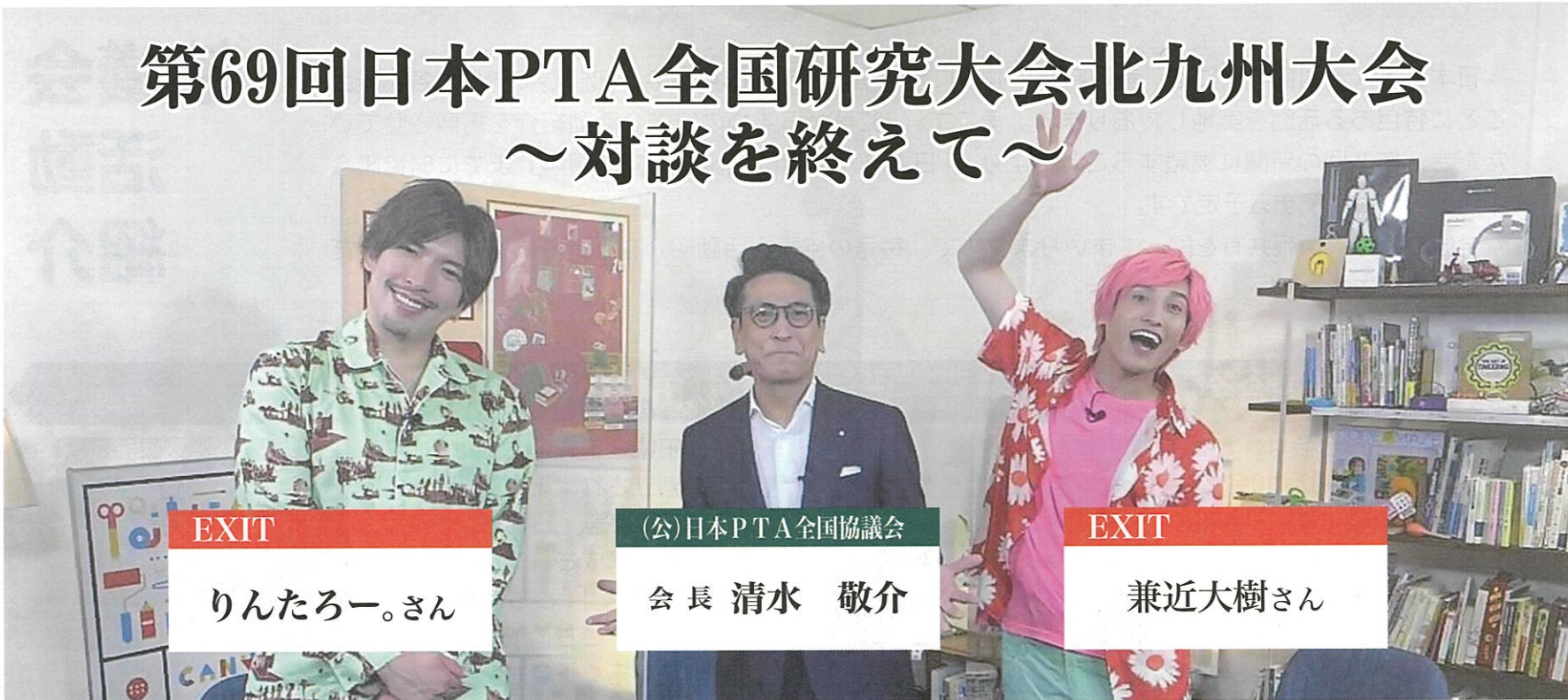
当会のスローガン「楽しもう! 夢と希望を育む子育てをつなごう! 親育ちのために」には、子育てを楽しみ親も育てようという思いが込められています。その実践として「県PTA大会」や「ネットモラル研修会」を開催。子どもたちの思いや考え方に気づきながら、大人の学びを継続しています。

県内協議会の会長が集まる「連P会長会」では、PTA運営の不安や課題を共有。最近ではPTA非加入、退会問題や、学校や地域との連携などについても議論されています。

このような県Pの活動を一般会員(約99,000世帯)にお伝えすべく、年3回の広報紙を発行。年度末には、単位PTAの活動も紹介する活動事例集を発行し、PTA活動を身近に感じてもらえるよう取り組んでいます。大人の学びを絶やさないよう、教育委員会との連携も保ちながら、精力的に活動しています。



第69回日本PTA全国研究大会北九州大会 ～対談を終えて～



EXIT

りんたろーさん

(公)日本PTA全国協議会

会長 清水 敬介

EXIT

兼近大樹さん

「本日はありがとうございます。自己紹介をお願いいたします。」

清水 公益社団法人日本PTA全国協議会、今年度会長をしております清水敬介と申します。

本日はありがとうございます。

EXIT ありがとうございます。よろしくお願いします。よろしくお願ひします。

「それでは、石戸奈々子さんとの対談を終えられていかがでしたでしょうか？」

りんたろー。まず、「今の教育現場ってそうなるんだ！」という驚きがありました。僕たちは仕事で過疎化している地域へ行くということをしていきます。過疎化集落の教育現場へも行かせてもらっています。番組上こちらから話をさせてもらえばかりで、

今の子どもたちがどういう環境で、どういうことを考えているのかが分かっていませんでした。今日の対談で（今の子どもたちを取り巻く教育環境について）学べたことがとても新鮮で楽しかったです。兼近（教育現場は）「変わらない」ということを美学にしているとお聞きしましたが、本当にどんどん変わっていくべきだと感じました。芸能界もそうですが、これまでの考え方が足りていないと、考えが固くなっていく感じがして、どんどん新しい空気を入れていくべきなんだと、恐れずに

変えていく必要があることを強く感じました。

「新型コロナウイルスの影響による教育の急速なICT化に伴い、大きく変わっていく教育環境の中で、PTAも今後変わっていくのでしょうか？」

清水 PTAは時代に応じて社会情勢も親の環境も変わっていくので、変えなければいけないことは変わっていくべきものではありますが、子どもたちの健全育成のために先生方や地域の方々と共に子どもたちを育てていくという風土は、たとえこれから時代がどう変わろうと、変わってはならないものです。これから新鮮な卵（対談中でPTAの存在をハンバーグの「つなぎ」に例えたことから）の状態活動を続けていかなければならないと感じます。

兼近 本当にPTAは「つなぎの卵」役がいんだと思います。学校って、先生も味方がいなければ苦しいし、子どもたちも先生との関わりの中で、先生が味方ではないと感じた時に、味方でいてくれるのは保護者でなければならぬんじゃないですか。本当に子どもと先生の懸け橋になるのはPTAでなければならぬと思います。そこはしっかりと「卵」としてつないでいってください。

りんたろー。兼近さんと全く同意見です！

清水 先ほどお話を伺っていて、「貧困」に関するお話があり、ご心配をされておりました。私たちは主に公立の小中・特別支援学校に通っている保護者の組織ですが、親の経済状態が子どもの教育環境に格差が生じるというのが一番良くないと思っています。これからICT化が進む中で、デジタル教科書やデジタル教材の利用がどんどん進んでいきます。そういった時に、各家庭に余計な追加負担がかかるようなことの絶対無いように声を上げることが私たちの立場です。小・中特別支援公立学校の中では、一律の同じ教育環境を整えていただきたいということをしつかりと行政や関係機関と連携を取り申し上げていきます。これは私たち（PTA）の立場として訴えていかなければなりません。

そして、先生方のご負担（が心配）というお話ですが、PTAでも昨今の教育現場では先生方の業務が日々膨大になっていくので、先生方のご負担を軽減する必要があると感じています。石戸奈々子氏は、多様性を尊重し学習者を主体とした学習環境をデザインしていくというこの取り組みに賛同しています。

兼近 今度、僕も番組を担当させていただくことになっていきます。自分が子どもの時に「ことば」に救われた経験があるので、子どもたちにも感じてほしい。「ことば」の大切さを一緒に考えていこうという番組です。番組を通して、逆に僕が子どもたちから学ぶことが多いと感じています。僕自身がとても楽しみにしています。

清水 お笑いと教育という、



「最後にラフ&ピースマザーについて、※吉本興業、NTTグループ、クールジャパン機構の3社により立ち上げられた「ラフ&ピースマザー」では、「遊びと学び」をコンセプトに様々なコンテンツを制作、発信する事業を展開している。石戸奈々子氏は、多様性を尊重し学習者を主体とした学習環境をデザインしていくというこの取り組みに賛同しています。」

なっていることを非常に危惧しております。先生方には10分でも1分でも長く子どもたちを目を向けていただき、教育の充実に尽力していただきたい。そこでPTA、保護者が何か力になることができたという活動を常に考えてやっております。



編集後記

日Pの今年度の活動を集めてみると、制限の強いコロナ禍の中でも、本部、ブロック、協議会、単Pといろいろな思いを込めて積極的に活動をしているのがよく分かります。日常に戻った後、364号を読み返した時に、こんな時もあったかなと思ひ出してもらえものができていれば幸いです。

(岡村耕)

(文中敬称略)